

議 事 録

会議の名称	第1回三田市制施行60周年記念事業推進協議会
開催の日時	平成29年11月7日(火)19時00分～20時20分
開催の場所	三田市役所本庁舎6階委員会室
出席した委員の氏名	森会長、今北顧問、白谷委員、中谷委員、中村委員、野崎委員、馬場委員、前島委員、前中委員、松原委員、三好委員、吉田委員 (藤埜委員は欠席)
出席した庶務職員の職及び氏名	城下理事、印藤地域戦略室長 田中政策課長、櫻井政策課副課長、藤田政策課係長、志水政策課事務職員
その他出席者	なし
傍聴者の人数	2人
議 題	(1) 会議録の取扱いについて (2) 三田市制施行60周年記念事業の推進について (3) 意見交換
会議の概要 (結論)	(1) 会議録の取扱いについて確認した。 (2) 三田市市制施行60周年事業検討委員会による提言書や、それを受けた当協議会の所掌事務等について説明するとともに、意見交換を行った。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	・次第 ・資料1 会議録の取扱いについて ・資料2 三田市制施行60周年記念事業提言書 資料3 三田市制施行60周年連携イベントの募集について 資料4 三田市制施行60周年記念事業実施計画(案) ・資料A 委員名簿 ・資料B 三田市制施行60周年記念事業推進協議会設置要綱
連絡先	地域戦略室政策課 電話(079)559-5038 内線(2212)

1 開会

- ・印藤地域戦略室長の司会により開会、配布資料の確認等
- ・森市長から開会あいさつ

2 委員紹介

- ・印藤地域戦略室長より配布による委嘱状の案内と、名簿順に各委員の紹介

3 議事

- ・協議会設置要綱第6条第1項の規定により、会長が議事を進行

(1) 会議録の取扱いについて

<事務局から資料1に基づき説明>

会 長： 発言者名の記載について、慣例に従って「会長」「顧問」「委員」と表記する案が説明されたが、この案で良いか。

委 員： （異議なし）

会 長： 提案どおり、発言者名は記載しない。

(2) 三田市制施行 60 周年記念事業の推進について

<事務局から資料2～4に基づき説明>

(3) 意見交換

会 長： 第1回の会議でもあるので、記念事業全般について自由な意見交換の場としたい。

少し補足説明をすると、市主催事業である記念式典や各条例の制定のほか、色々な事業について庁内プロジェクトチームが検討を進めており、市で責任を持って実施する。

また、県や市内の各団体の事業については、連携事業として盛り上げていきたい。さらに、様々な主体の参加・協力のもと、協議会事業を実施するための企画等を検討いただきたい。

委 員： 記念式典のほか、講演会など、硬派な事業は市主催事業として実施するイメージを持っている。この協議会では、ソフトなものを検討するのか。

会 長： 市主催事業は市が責任をもって実施するもので、協議会事業として、この協議会の関係団体にアイデアやマンパワーの協力をお願いしたいと考えている。

委 員： 新しい風を起こすために関西学院大学、湊川短期大学、青年会議所等の若い人達で推進してもらいたい。硬派と軟派なものを両輪として実施することを漠然と考えている。

委 員： 青年会議所は来年 50 周年を迎え、年間 12 回の事業のうち、半分程度を市と協賛して実施する。また、8月に県下レベルの大々的なイベントを市内で実施する予定である。

昔は市役所の周りには人が集まり、楽しかったイメージがあるが、現在はかけ離れてしまっている。現在、風の広場やふれあい大通りを整備されているのであれば、これを市民が活用し、様々なイベントを開催できるような場所にしていきたい。市民が一同に集まることができるイベントとしては、ギネスに挑戦したり、バーチャルリアリティ技術を活用して三田のまちを全世界に発信できたらおもしろいと思う。

委 員： 県政 150 周年記念「県民連携事業」について、商工会の各部会で企画している事業で活用できるのか。

事務局： 当該事業の助成団体の定義については、県に確認する。

委 員： 連携事業については、三田市文化協会が企画している事業を拡大することで協力できると考えている。市主催事業として、記念式典以外に新しい祭りはどのようなものと考えているのか。過去には、駅前の行列や幟差しを行ったことがあるが。

事務局： 庁内にプロジェクトチームを立ち上げて検討を進めているところである。次回以降の協議会に諮る予定である。

会 長： 委員が言われているまつりに近いものは、協議会事業で実施したい。さんだ祭りのように色々な団体が参画して実行委員会形式で実施するような。

市主催事業は、市単独で仕掛けをしていくことと条例を制定するもので、市民を盛り上げていくイベントは協議会事業と仕分けをしていきたい。

委員： 主催事業は別として、記念事業の区分が分かりにくい。例えば、三田農業まつりは協議会事業に当てはまるのか。

今回の事業は、農家、市民、関係団体、企業とコラボレーションしやすいイベントがより大きくできると期待している。今回の台風で、農産物や農業施設に甚大な被害もあり、弱気になっている生産者も多く、平成 30 年は、生産調整が自由化されることで懸念されている方もいる。そういった方々を元気づけることと、この事業を上手く関連づければ幸いと考えている。

また、学校給食の品目の拡大を軸にしたイベント等も検討してほしい。

委員： 記念事業の全体スケジュールは、最初にすべての事業を決めてスタートするのか、随時更新していくのか。また、協議会事業や連携事業の実施にあたり、県の助成金を活用することを前提とするのか、市の独自の予算が計上されるのか。

社会福祉協議会では多くの事業を実施しているが、大半は 65 歳以上を対象としており、若い人に呼び掛けても参加してもらうのは難しい。しかし、何らかの事業で協力できるよう検討していきたい。

事務局： スケジュールについては、ある時点で取りまとめて広報していくが、実施団体の都合に応じて随時追加・更新し、市ホームページで情報発信することを考えている。

来年度の予算編成が非常に厳しい状況にあることから、現時点で予算について確かなことは言えない。

委員： 連携事業については、湊川短期大学では、市と共催して市民大学を実施しており、来年度は、記念事業の冠をいただいて実施する。

本学では、地域連携センターが立ち上がって 2 年目になり、登録ボランティアの学生数も 40 名となっている。市主催事業についても、学生がどう関わっていけるのか検討できればと思う。また、幼稚園教員、保育士、介護福祉士等、人に関わる仕事を志向する学生が本学の特徴であることから、人と関わるなかで勉強させていただく、というスタンスで学生を指導していきたい。

委員： 一過性のお祭りも結構であるが、次につながるようなことをやりたいと思っている。また、記念式典とは別に、30 周年や 40 周年の際に実施したシンポジウムをやってほしい。かつての 21 世紀国際公園都市のような目標を掲げて、改めてまちづくりを考える時期に来ている。その他に、市の歌を作ったが、自分の周りでは忘れられている。これを何とかしないといけない。

また、資料 4 三田市制施行 60 周年事業の《個別コンセプト》のなかで、『つたえる』『つなげる』『はぐぐむ』に『いかす』を考え方として加えてほしい。このまちの活性化には、人を活かすことが鍵だと考えている。高齢者は智の蓄積であり、この方々にぜひ参画してほしい。

委員： 関西学院大学として、現時点で連携事業として具体的な取り組みはない。記念事業の基本方針・コンセプトからすると、一過性ではなく今後につながるものができればと思う。三田市の中心地に人が集まるようなプログラムが実施できれば。本学に市外から通学する学生の大半は、三田駅で降りたことがなく、学びの都とするためのきっかけとなる事業を実施できればと思う。

委員： 各地域のまちづくり協議会が行き詰まりつつある。これをもう一度活性化するための事業を検討してはどうかと考える。

会長： 市主催事業のなかで、(仮称) コミュニティ条例の制定を検討している。それを契機に地

域を活性化するような仕組みを構築できればと考えている。

以前のような豊かな財源は確保できないなかで、できる限り知恵を出しながら検討していきたい。

顧問： 顧問という立場がまずよく分からない。各委員の意見を聴いて感銘を受けたが、三田市の状況を見ると、財政難という大きな壁がある。各委員が事業をやりたいという想いは理解できるが、縮小しなければならない。まずは、大枠の予算のなかで、どんなことができるのか一番気になる場所である。各委員の意見を実施するには、どれだけの予算があれば実現できるのか、現状では難しいと感じる。

過去の周年事業の話があったが、50周年の際も大変な財政難であった。お金を使わず、知恵を出し合って、一人でも多くの市民に喜んでいただけるものにしたい。

話は変わるが、県政150周年記念の一環として作成されたピンバッジをもらった。これを着けると自分も記念事業に参加した気分になる。過去に作成したキッピーの缶バッジは子ども達にも非常に人気がある。そういったことによって、子ども達にもわくわくしてもらえるのではないかと。また、冠事業に参加すればスタンプを押し、多くのイベントに参加してスタンプを貯めれば感謝状を出すことにすれば、子ども達にも喜んでもらえる。

議会も一緒になって60周年記念事業を盛り上げていきたいと思う。

会長： 顧問の位置付けについては、県政150周年事業の体制を参考にしたものである。市民総参加として60周年記念事業を実施したいことから、他の委員と同様に、自由闊達に意見を述べていただきたい。

予算については、昨年度より約10億円程度の削減をしていかなければならないなかで、元気で成熟したまちづくりを進める契機とするため、財政をやりくりしていきたい。

また、顧問の意見にあったバッジやスタンプについても参考にしたい。

委員： 60周年事業は、本年8月からイベント期間ということであるが、関係団体にはどのように周知すればよいか。

事務局： 資料3にあるとおり、簡便な手続きでシンボルマーク等を活用できるようにしているので、今後の事業実施の際には、申請をしていただきたい。

会長： 本日の協議は以上とする。

5 閉会

- ・次回は、12月21日（木）19時から本庁舎6階委員会室で開催する。